

代表者 3A 村木里帆

指導者 今川浩子

はじめに

私たち高校生は郷土愛に目覚め、地域に根ざした活動が可能な年代である。しかし、自分たちで地域をよりよくしていこうという主体性と行動力に欠けているように思う。多方面かつ異世代間の交流により、高校生の力で地域を活性化させる方法について考え、実践していきたい。

I テーマ設定の理由

鹿角の地域活動に主体的態度で参加することで、地域活性化が実現する仕組みを体験を通して考察し、地域貢献の方向性を探りたい。

II 実施計画

- 5月16日 オリエンテーション
年間計画の説明
- 5月30日 自分で参加するイベントやボランティアを決定する。
手話の基本を学ぶ
- 6月 6日 手話講習会（コミュニティツールとしての手話を学ぶ）
- 6月20日 グループエンカウンターの実践（コミュニケーション能力の向上）
- 1 構成的グループカウンター・ミニエクササイズ
①対話（ミラーゲーム他） ②出会い
- 2 自己分析
①好きな言葉 ②好きな番組 ③通知票の先生のコメント欄
- 6月10日 サタプロ2017開始（～12/10）
10名参加のうち、3名が研究メンバー
- 6月14日 かづの高校生広報室委任状交付式
6名参加のうち、2名が研究メンバー
- 6月18日 鹿角の演劇を楽しむ会 市民劇参加（練習）
- 6月30日 鹿角の演劇を楽しむ会 市民劇参加（本番）
5名の参加のうち、1名が研究メンバー
- 7月31日 小学校学習支援
- 7月29日 バックステージツアー
朗読チャレンジ体験
3名参加のうち、1名が研究メンバー

- 7月27日 赤ちゃんのほっぺ
3名参加のうち、1名が研究メンバー
- 8月26日 枝豆収穫体験（鏡田ファーム）
- 9月17日 かづの元気フェスタ
- 10月 4日 錦木保育園園児と交流
- 10月24日 花輪市民センターの活動紹介（花輪市民センター長）
- 11月 5日 地方は活性化するか否か（スタッフ業務）
- 11月21日 交流ランチメニューの考案
- 11月28日 交流ランチ調理実習
- 12月12日 錦木保育園へのプレゼント作成
- 12月18日 錦木保育園園児との交流
- 12月19日 発表リハーサル
- 12月20日 発表本番

III 調査・研究内容

- 1 班編制
最初に班編制をした。
2年生が3名、3年生が4名の計7名、2班編制とし、リーダーも決めた。どの地域活動に参加するか決定する。



手話講習会（こぶしの会）

学年間の交流として、グループカウンターや自己分析を行った。

高校生プロジェックスサタプロ2017の企画会議が開始した。本番は12月10日（日）で、今年は、保育園、小学生と高齢者との交流を企画し、内容は謎解きのスタンプラリーや昔遊び、また、昔の給食をイメージして調理・試食を計画した。



サタプロ企画会議（コモッセ）

今年度から始まった鹿角市の企画に「かづの高校生広報室」があり、研究メンバーも2名参加した。3月31日までの任期で、鹿角の魅力を写真に納め、提供するという内容である。先日、「ダイヤモンドナイト」の収録後、映画プロデューサーの山田孝之さんにインタビューも行った。



かづの高校生広報室委嘱状交付式（鹿角市役所）

今年は鹿角の演劇を楽しむ会演出の高木豊さんから市民劇の参加依頼があり、キャストやスタッフとして参加した。初めての体験で、演技も裏方も順調にはいかなかったが、なんとか本番に間に合わせ、盛大なフィナーレで終わることができた。



市民劇練習風景

市民劇本番

毎年恒例の十和田小学校の学習支援、今年初のバックステージツアーにも参加した。



十和田小学校学習支援

朗読劇

今年も赤ちゃんのほっぺ、かづの元気フェスタに参加した。



赤ちゃんのほっぺ

かづの元気フェスタ

<中間評価>

「笑顔がつながり、活力を生むまち・鹿角」について考えた。鹿角の商店街を通っても残念ながら賑わいは感じられない。元気な商店街、活気ある地域イベントを実現するためには若者のチーム力が必要であると感じた。



枝豆収穫体験（鏡田ファーム）



園児との交流

花輪市民センターの活動紹介



演劇「地方は活性化するか否か」スタッフ業務



交流ランチの調理



サタプロ2017本番

錦木保育園児との交流

IV おわりに

高校生による地域コミュニティの活性化について、1年間にわたり校外外で活動を展開してきた。高校生は子どもからお年寄りに至るまで多世代交流の要であり、橋渡しの存在でもある。地域での活躍が求められていることは、身をもって実感できた。

今後は地域興しの担い手として、自ら進んで企画・運営に携わり、街をさらに活性化していきたい。